

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

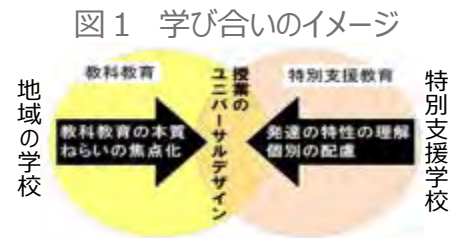
【様式 1】

〈エントリーシート〉	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	校内研修部門	東京都立府中けやきの森学園
No. : C-29	活動名 地域連携と授業改善 ～授業 UD を共通のキーワードとして～	

課題の設定：

特別支援学校では、小中高等学校に準ずる教育課程で学ぶ児童・生徒は、各学年 1～2 名となる。そのため、指導にあたる教員も数名になってしまうので、校内だけでは、教員間で学び合うことが難しく、教科教育における専門性の向上が課題となっていた。

一方、地域の学校では、多様化する児童・生徒の困難さや教育的ニーズに応じた適切な支援を考え指導するための、特別支援教育に関する専門性の向上が急務になっていた。そこで、互いの課題を地域のコミュニティを活用して解決していく取り組みを行った(図1)。



方針・計画：

地域のコミュニティを活用して、互いの専門性を融合させ、児童生徒の多様なニーズに応じた教育のための専門性を向上させる。

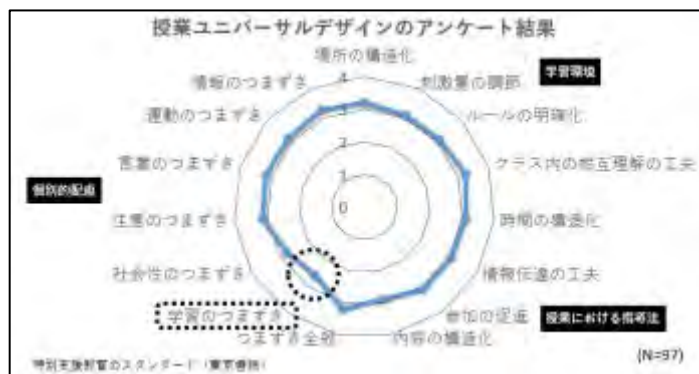
1 年目(平成 28 年度) 教員の課題を明確にするためのアンケート調査の実施と各校の実践紹介
 2 年目(平成 29 年度) 対象の授業や研究会を設定し、より深く学び合う場を設定した実践
 3 年目(平成 30 年度) 研修会の共同開催を定着化する取り組み

活動内容：

1 年目は、授業 UD の視点からみた課題を明確化するために、アンケート調査を実施した。その結果、本校では「学習のつまずきへの指導の工夫」の項目が他より低くなっていて、課題と感じている教員が多いことが分かった(グラフ1)。その課題を解決するため、地域の学校の教員から助言を受け、授業改善に取り組んだ(写真1)。

また、地域の研究授業へ参加し、特別支援教育の視点から助言を実施した。地域の 5 校の学校から研究協力を受け、連携しながら進めることができた。

グラフ1 授業 UD のアンケート結果



【地域の学校から特別支援学校への支援事例】

写真1 小学校算数科の授業改善への助言



写真1は、地域の小学校の先生を、本校肢体不自由教育部門小学部の「算数」の授業助言に招いた時の様子になる。この後、協議会を行い、特別支援教育の教員では、なかなか難しい専門性の高い助言をいただいた。また、授業視察、協議会には、本校外部専門家の言語聴覚士も参加した。あえて地域の先生と言語聴覚士が同席する機会を設定し、地域の学校の先生から助言をいただくだけでなく、特別支援教育ならではの科学的なアプローチを知っていただく機会とした。

2 年目は、地域の学校の英語科の授業を特別支援教育の視点から分析を行い、学習のつまずきがある生徒にどのような支援が有効かを明らかにした(写真2)。

【特別支援学校から地域の学校への支援事例】

写真2 授業 UD の視点(中学校英語科)



地域の中学校の専門性の高い英語科の授業分析後、各教員が取り入れてみたい授業のスタイルを書き出した。意見が多かったものには、「①刺激量の調節・興味のスウィッチ ON」「②身体性の活用・質問のときに立つ⇔座る」等があった。一方、数が少なかったものは、「①苦手な生徒が興味をもつ工夫」「②要点の確認」「③理解をそろえる」「④答えられなかった生徒への言葉かけ」「⑤授業スタイルを統一」など、取り入れたくても、すぐにはできそうもないものであった。

しかし、そこそが、地域の学校と特別支援学校の専門性を融合させて築いていける「授業 UD」だと考え、合同研修会を積み重ね、若手教員が実施する国語科の授業改善への般化させることができた(写真3)。

写真3 合同研修会の様子



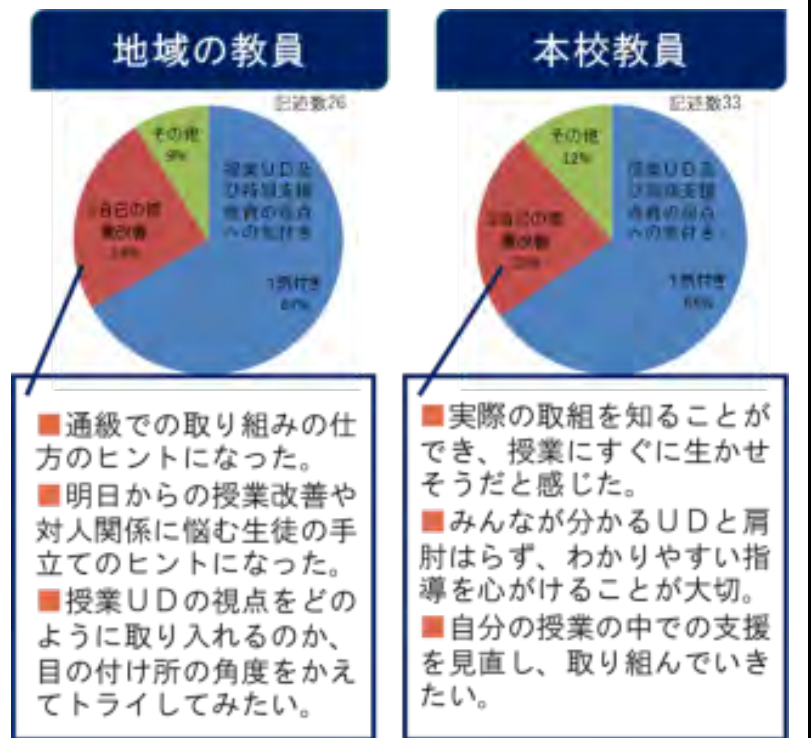
2 年目は、さらに研究協力校が 11 校に広がり、府中市教育委員会からも後援を受けた。協力校と研究授業を通して、専門性の融合が広がっていった。3 年目は、研修会での学びを深め、研究会を共同開催する計画が進行中である。

活動の成果：

互いの専門性を融合させ、授業改善を行う取り組みは 3 年目を迎えた。研究の継続が、地域の学校との合同研究会開催の定例化につながったことは、大きな成果である。また、2 年目に実施した合同研修会後のアンケート(自由記述)を分析すると、地域の教員、本校の教員ともに「授業 UD 及び特別支援教育の視点への気づき」「自己の授業改善に生かす」の内容が、ほぼ同じ割合になった。この結果から、地域のコミュニティを活用した教員間の学び合いが、互いの授業改善、専門性の向上へとつながる取り組みになることが明らかになった。

今後も、特別支援教育の専門性を高めながら、地域の学校との学び合いを継続しシステム化することが、地域のコミュニティを生かした連続性のある多様な学びの場の提供につながり、インクルーシブ教育システムの構築の土台となると考える。

グラフ2 合同研修会の効果に関するアンケート結果



アピールポイント(アイディアや工夫)：

- ・地域と連携した教員間の学び合い
- ・授業ユニバーサルデザイン
- ・特別支援教育と教科教育の融合
- ・研究会の共同開催の定着化